

住民主体のまちづくり

No.23 2015. 10

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 自治会から地域自主組織へ

島根県雲南市は、平成の大合併（平成 16 年 11 月 1 日）により、大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・掛谷町・吉田村の 5 つの町と 1 つの村が合併してできた自治体で、平成 27 年 5 月 1 日推計の人口は約 3 万 9,100 人です。

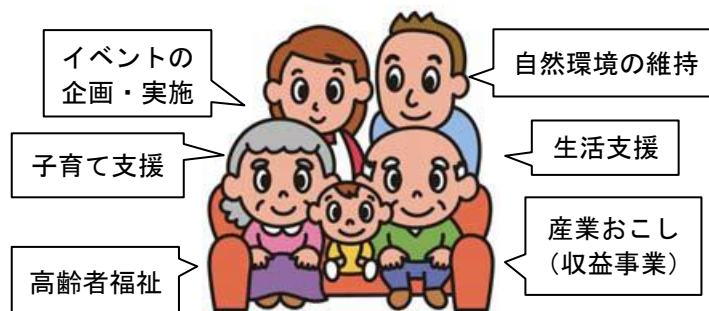
合併協議を進めるなかで、住民と行政が力を合わせてまちづくりを進める「協働のまちづくり」や「住民自治」が不可欠な時代になっており、取り組みをいっそう充実させる必要があるとの共通理解を得ました。一方で、6 つの町村とも従来はこうした「協働」をする際に住民側の窓口である自治会が雲南市成立時には 500 余も存在するが、「少子高齢化」「活動の担い手不足」「活動参加者の減少」「新興住宅地における未加入世帯の増加」などの課題を抱えている自治会が多く、円滑な市政運営の障害になる可能性も指摘された。このような状況を踏まえ、新雲南市成立後の優先的な施策として「地域自主組織」の設立が推進された。この組織は、従来の「自治会が果たしていた機能を補完する新しい組織づくり」「地域の身近な課題に対して住民自らが担い手となって解決することができる組織づくり」との位置づけから、「一定量の人口が確保できる公民館区域や小学校区、あるいは数集落を単位とした組織づくり」との考えに基づいて進められ、平成 19 年 9 月に市内全域で立ち上がった地域自主組織の数は 44 であった。つまり、500 余の自治会が 44 の地域自主組織に集約されたのです。

さらに同市は、公民館を生涯学習の枠を超えた多機能な市民活動の拠点として「交流センター」に衣替えしました。29 の交流センターを拠点とし新たに設立された地域自主組織がそれぞれの地域課題を解決するための独自の特色ある活動をする「小規模多機能自治」に取り組んでいることで注目されています。

地域自主組織は、雲南市からの「地域づくり活動交付金」と交流センターの指定管理料を財源として、職員を直接雇用し、交流センターを拠点に、「安心・安全の確保」「歴史・文化の活用」「持続可能性の確保」という 3 つの視点を持って活動しています。

また、地域自主組織の運営上の特色は、自治会のように「世帯参加」「1 世帯 1 票」ではなく、地区住民のだれもが参加でき、議決権は「1 人 1 票」制度をとっていることです。

なお、「地域自主組織取組発表会」を年 2 回開催し、全組織が取り組みについて発表し相互に学ぶ機会を設定しています。また、各地域の防災・福祉・社会教育について、各地域自主組織の担当者が意見交換する「地域円卓会議」なども開催しています。



地域自主組織

町や地区ごとに歴史や特徴があります。従って、他の事例を真似しても成功するとは限りません。

「地域自主組織」は、まず様々な世代の住民がしっかりと話し合いを行うことが基本です。マイペースで楽しみながら進めていきましょう。

島根県雲南市地域振興課